

■後水尾天皇 108代天皇。幕府の干渉に耐えかねて、譲位するも、超長期院政で、宮廷文化の隆盛を主導した。

ごみずのおてんのう

26聖人殉教・1596＝ 生。後陽成天皇の第3皇子。母は中和門院近衛前子。諱は政仁。

父天皇は、第1皇子良仁親王を廃して、弟宮の八条宮智仁親王に継がせたいと考えていたが、

関ヶ原の戦い・1600＝ 4歳：

朱印船制始・1601＝ 5歳： 覇権を握った徳川家康が介入、良仁親王を廃することは認められ、強引に出家させたが、後継は嫡出男子と言われて、やむを得ず儲君に立てられ、結果として、家康に屈した父天皇から疎まれるようになり、

徳川家康隠居1605＝ 9歳：

家康駿府退隠1607＝11歳：

・・・・・・1608＝12歳： 徳川家康から、将軍秀忠の娘和子の入内を打診された父天皇は先例が無いと認めなかったが、この間、**朝廷の風紀の乱れの問題で、幕府の意向に屈しざるを得なくなったことに不満をつのらせて、側近の公家衆や生母、皇后とも逢うのも避けるようになった父天皇との関係が悪化、**

山田長政渡航1611＝15歳：

刊し教禁止・1612＝16歳：

支倉常長渡欧1613＝17歳：

大坂冬の陣・1614＝18歳：

大坂夏の陣・1615＝19歳：

**後陽成天皇が譲位して踐祚したが、受け継ぐべき品物が渡されないなど、父上皇と不仲が続くなか、家康は、公家に対して家々の学問等の嗜みを命じ、新御所が完成して移徙。幕府から、公家衆法度、紫衣法度、家康の大坂攻めに、和談を勧め断られるも、いったん講和。将軍秀忠和子の入内を申し入れを受け入れ、大坂の陣が終り、家康、秀忠が参内。禁中並公家諸法度が出され、以後、朝廷は京都所司代の監視のもと、摂政・関白が朝議を主宰し、武家伝奏を通じて幕府の承諾を得るように、天皇の権限は排除され、**

徳川家康没・1616＝20歳：

吉原遊郭始・1617＝21歳：

・・・・・・1618＝22歳：

家康が死去すると、秀忠から使者が派遣され、禁中で家康の神号を協議し、東照大権現に決定。**父上皇が崩御して、ようやく、禁裏文庫に収められた大量の古典籍が引き継がれたものの、大坂の陣、家康、後陽成の死去で、和子の入内が延期され、ようやく女御殿の造営が開始されるが、天皇と寵愛の女官の間に皇子・皇女がいたことが幕府に発覚して問題化、**

菱垣廻船始・1619＝23歳：

支倉常長帰国1620＝24歳：

**秀忠自身が参内して追究、風紀の乱れを理由に公家数人を配流、出仕停止、憤慨して譲位しようとするも、幕府の使者藤堂高虎に恫喝されて留まり(およつ御寮人事件)、ようやく和子が女御として入内、満足した秀忠は、処罰した者の赦免・復職を命じる大赦を天皇に強要されて、結局、父後陽成天皇同様、幕府に不満を募らせていくことになる。**

利根川付替始1621＝25歳：

徳川家光将軍1623＝27歳：

イパニ断交・1624＝28歳：

寛永寺創建・1625＝29歳：

人身売買禁止1626＝30歳：

紫衣勅許無効1627＝31歳：

勅して「皇宗事宝類苑」を刊行させ廷臣や学者らに与えた。**外戚となった徳川氏は皇居を造営し、「新御料」を設けるなど一応の尊崇の意を表し、**

**\*和子を中宮(のちの東福門院)にすると、**

智仁親王から古今伝授を受ける(御所伝授の始まり)。**高仁親王が誕生したように、お互い仲良く、**

**二条城への行幸が行われ、徳川秀忠と家光が上洛、拜謁したように、一時的に復がれたが、**

**紫衣事件によって、朝廷の面目を完全につぶされ、将軍家光の乳母福(春日局)が無位無官の身で拜謁するという前例のないことが敢行されて、耐えきれなくなり、**

**\*突如、幕府への通告を全くせず、(高仁が夭折していたため)和子所生の興子内親王(明正天皇)に譲位。**

この頃、後水尾院周辺で、立花が流行。

徳川秀忠没・1632＝36歳：

鎖国令Ⅱ・1634＝38歳：

**当初は院政を認めなかった幕府も、将軍家光の上洛を契機に認めるが、その後も幕府との確執が続くなか、上皇の政治方針に理解を示す東福門院(和子)の存在によって、幕府からは圧力ばかりでなく、支援も受けることも生じ、明正・後光明・後西・靈元の4天皇、51年にわたり院政をしくことになる。**

家光鎖国完成1641＝45歳：

幕府の監視下、東福門院と仲が良かったにもかかわらず、女性関係は派手で、禁中法度を無視して宮中に遊女を招きいれたり、遊廓にまでお忍びで出かけ、譲位後にも中宮以外の女性に30余人の子を産ませ、

御蔭参流行・1650＝54歳：

徳川家光没・1651＝55歳：

**\*剃髪して出家(法名は円浄)、法皇になる。**

出家した後も精力や欲求は衰えず、

野郎歌舞伎始1653＝57歳：

後の靈元天皇を産ませている。

・・・・・・1655＝59歳：

この頃、幕府が、修学院離宮の造営を開始し、両上皇(明正上皇・後水尾法皇)・女院の規則を定める。

明暦の大火・1657＝61歳：

朱舜水帰化・1659＝63歳：

**修学院離宮、ほぼ完成し、御幸。**

清帝国始・1661＝65歳：

「百人一首御講釈問書」成る。

諸宗寺院法度1665＝69歳：

この年以前に、勅撰和歌集の「類題和歌集」が成立。

酒井忠清大老1666＝70歳：

足利学校再建1668＝72歳：

談林派俳諧・1675＝79歳：

八十賀。

・・・・・・1676＝80歳：

御所失火、女院御所、延焼する。

・・・・・・1677＝81歳：

新造の御所に移る。

越後騒動・1679＝83歳：

**\*自ら主導して天皇の下に設置した御側衆(後の議奏)に、幕府からの役料支給が実施されるほどになって、**

徳川綱吉将軍1680＝84歳：

**没した。**

一世一元の制導入(江戸時代)以前の明確な記録が残る歴代天皇の中では最高齢である。遺諡により後水尾と追号されたが、水尾とは清和天皇の異称である。父後陽成天皇同様、学問を好み、智仁親王、鳥丸光広、中院通村らに「伊勢物語」「源氏物語」「古今和歌集」「詠歌大概」などを進講させ、ときに自らも廷臣に講義し、「伊勢物語御抄」などを著作している。